

成 果 報 告 書

【令和元年度教育改革推進事業経費】

所属部局	経済学部	代表者氏名	本庄 麻美子
事項名	基礎的・汎用的能力育成の観点からみたキャリア教育プログラムの開発と実践		
当初計画に対する目標達成率	75%	事業の終了時期	令和2年3月
予算配分総額	808千円	経費使用総額	808千円
<p>【事業の成果】 ※具体的に記入してください。</p> <p>経済学部では2016年度から1年次生を対象に基礎力測定テストPROGを受験させ、学生の基礎力（汎用的能力・ジェネリックスキル）の可視化を図っている。本事業では3年次生（2017年度入学生）に再度PROGを受験させ、テストの成績（PROGで測定される基礎力）が2年間でどう変化をしたかを把握し、その結果を踏まえて、学習成果（カリキュラムの教育効果）の評価を試みた。そうした取り組みの進捗状況を報告し、学内での情報共有を図った。</p> <p>また、それに加え、キャリアセンターやCOC+推進室の事業担当者などと連携し、受験者を他学部（教育・システム工・観光学部）にも広げ、卒業後の進路を見据えたキャリア教育プログラムを今後どのように設計・実施していくかの検討を行う材料とした。</p>			
<p>【当初計画段階との対比】 ※上記目標達成率を判断した理由等</p> <p>本事業は計画どおり実施され、目標はほぼ達成できた。3年次生に対するPROGテストは、予算の範囲内で実施した（3年次編入生を含む経済学部196名<昨年対比+42名>と観光学部2名、システム工学部1名の合計199名が受験（2020年3月4日現在）。</p> <p>COC+推進室のわかやま未来学副専攻の学生（40名中3名が受験）、キャリアセンターのキャリアサポートチームの学生（20名中希望者3名 ※未受験2020年3月中旬に実施予定）へは周知したものの、あくまで希望制であったため、受験した学生が少数であったことに課題が残った。</p> <p>経済学部2017年度入学生の成績の変化については、その変化の要因も含め、経済学部教務委員会等で分析中である。今後はプログラムごとの分析、キャリア教育科目受講有無等の分析も実施していく予定である。</p>			
<p>【今後の展望等】</p> <p>○本事業の発展性</p> <p>学生の基礎力を直接測定しようとする、いわゆる直接評価あるいは客観的評価の試みが始まっている（平成31年度国立大学教養教育実施組織会議・全体会議題）が、評価基準や測定方法については統一的なものは未だ本学では確立されていない。このような客観的評価の試みを早急に検討し、本学も全学的に取り組んでいく必要がある。本事業がそのきっかけとなることを期待する。</p> <p>○改善すべき事項</p> <p>外部に頼らず、大学独自の指標を作る方がいいと批判的意見も多くあるが、このような基礎力の評価方法・基準の開発には費用と時間がかかるため、他大学や企業等との連携が不可欠である。これらは国内外の大学の共通課題といえるので、より組織的・継続的な取り組みが求められる。</p> <p>○大型の競争的資金等（COE、GP等）への申請実績及び今後の予定</p> <p>他大学やリアセック等の企業との共同研究の可能性を模索し、競争的資金等の獲得を目指したい。</p> <p>○その他特筆すべき事項</p> <p>2019年9～10月 PROG試験（リテラシーテスト35分/コンピテンシーテスト40分）の実施</p> <p>2019年11月15日 学生向けフィードバック（PROG解説会：90分）を実施 100名が参加</p> <p>2020年1月9日 教員向け勉強会（60分）を実施 18名が参加</p> <p style="padding-left: 40px;">PROG受験結果（全体傾向、他大学3年生との比較、1年次→3年次の比較、68期生との比較）と今後のデータ活用方法について</p>			